

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100842		
法人名	医療法人社団慶城会		
事業所名	グループホーム仰星台入綾		
所在地	日向市東郷町山陰丙1494-1番地		
自己評価作成日	令和4年8月9日	評価結果市町村受理日	令和4年10月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和4年9月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様ひとりひとりのニーズに基づき本人様に寄り添い、思いや希望を受け止めて支援させて頂いています。必ず、職員は申し送りノート確認を行い、その日の業務(病院受診、行事等)についても確認します。母体が医療法人のために支援体制も充実しています。令和4年度は、認知症介護実践者研修と介護支援専門員受講します。資格取得を目指し取り組んでいます。行事食は、できる限り手作りして家庭的な食事を提供しています。職員間も協調性、信頼関係を保ち業務を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体である医療法人や、系列の介護保健施設等と幅広く連携が図られ安心できる日々の支援に繋がっている。ホームの理念に「利用者の残存能力を生かし自立を促す支援」を掲げており、管理者と職員は情報の共有を図り利用者の見守りに配慮、工夫がされ日々の支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	本人様に寄り添い、思いや希望を受け止め理念に沿ったケアに取り組んでいます。	理念を常に意識出来るようにミーティングや、申し送りなどで確認し日々の支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍ですが、自治会に加入して自治会報で把握しています。	自治会にも加入しており地域の方との交流もある。コロナ禍で8月に予定していた夏祭りも中止となっている。また近所の方の好意で草刈りも行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のために、運営推進会議で地域の方と学ぶ機会ができていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で、運営推進会議が実施できていませんので文章で報告しています。	運営推進会議が中止となり、委員の方や家族代表の方には郵送にて資料を送っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類提出のために市町村担当者の方とは常に連絡行い、伺い協力関係を築きサービスの向上に努めています。	行政担当者とは常に電話や、利用者の状況報告を直接して助言をもらうなど連携が図れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について学び、外門は常に開けています。身体拘束をしないケアを共有しています。	管理者と職員は身体拘束の弊害を理解し共有しており見守りの支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待に繋がらないように、職員で日頃より意識をして業務に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方が入居されています。制度活用について理解できるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が行い、利用者や家族に説明をして理解して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のお便りで現状報告を行い、必要に応じて電話連絡を行い、意見や要望を表せるように努めています。	毎月の便りを届けており現状報告をしている。コロナ禍ではあるが家族からの連絡もあり、また意見や要望など何でも話せる雰囲気づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会、毎日行うミーティングで意見交換申し送りノート活用して情報の共有に努めています。	定例会や日々のミーティングでは意見や提案が出され反映している。例として夜勤者の負担の改善案が出され実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行っています。向上心を持って働けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修にはできるだけ参加に努めています。認知症介護実践者研修の受講を予定しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	必要に応じて関連施設の方と会議を開き意見交換情報収集しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の話をよく聞き、不安にならないように安心して生活ができるように支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が不安にならないように十分に説明を行い要望等確認しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームでの毎日の流れを説明して希望される支援ができるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様に対して尊敬の気持ちを忘れずに傾聴するように気をつけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りで本人様の様子を伝え安心していただけるように支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で思うような対応はできませんが、本人様の要望があれば電話をかけるなど対応しています。	現況では思うような支援ができない中、家族からの電話や要望で全体像が見えるガラス越しの面会など支援対応がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	くつろげる様にソファを置き気の合う方が会話をしたり、席でも話ができるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退所された方には、病院に出向いた際状態確認を行っています。利用者様がお亡くなりになりましたがご家族との交流が続いている方があります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話の中より思いや希望を受け止め寄り添い傾聴するようにしています。	利用者のペースに合わせ言葉をかけ、表情や動作から希望や意向を把握出来るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの経験を会話の中より聞き取り、ご家族にも確認しながら工夫し行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの表情言動行動を、観察会話の中より現状を把握し、無理なく本人様のペースで過ごして頂いています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様の思いを大事にし、やりたい事得意な事等出来る喜びを多く持って頂けるように職員間で共有行っています。定例会で意見交換を行い情報の共有行っています。	担当制を設けており家族からの要望も聞き取りをしている。毎月の会議では全職員で意見交換を行い情報の共有と介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子気づきや本人様が発した言葉等記入し職員間で情報を共有し役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様ご家族の方々それぞれの思いや希望は様々ですが寄り添いかなえられるように行っています。		

宮崎県日向市 グループホーム「仰星台入綾」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の祭り、夕涼み会等で地域の方と交流の機会が、コロナ禍で行えていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の定期受診、健康診断を行いかかりつけ医(母体が医療機関)との関係を大切に適切な医療が受けられるように行っています。	毎月の定期受診の支援がされている。他科受診時には家族の協力も得て連携を図りながら適切な医療が受けられる様配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の記録、職員間での情報共有等で適切に支援できるように行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時病院側に本人様の経過をすぐに報告できるように記録を基に状態を把握しています。入院中の様子も情報を取り入れています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様とご家族と話し合い、今後の要望等を確認してそれにあつた支援をしています。	入居時に管理者がホームで出来る事など口頭で説明をしている。終末期医療についての確認書も作成しており医師や家族の意向を踏まえた支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には主治医看護師に連絡し指示を受けています。職員定例会で常に確認行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練行っています。定例会でも話し合い非常食の管理、防災頭巾をホールに設置しています。	定期消防訓練の他、去年は地域開催の風水害防災対策講習会にも参加している。近隣の系列のホームと入綾を含め避難時の協力要請も地元消防団や近隣の方に呼びかけており協力体制が築けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の言葉に耳を傾け寄り添う気持ちをもった対応を心がけています。	日々の申し送りや会議の中で利用者の誇りやプライバシーに配慮した取り組みがなされるよう努めている。特に重ならない言葉かけに配慮した取り組みの対応が図れている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望や思いをしっかりと聞いて受け入れ共感し、本人様の希望に近づけるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの個性を尊重して利用者様主体の生活を優先していくように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期受診時の外出、誕生会等は自分で選んでその人らしいおしゃれができるように配慮しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みを把握して、行事食ではできるだけ手作りを提供しています。今年も、保存食(梅干し)を皆さんと作りました。	利用者の好みの把握に努め、禁食など常に意識出来るように掲示している。誕生日には好みを聞き取り楽しんでいる。また保存食である梅干し作りや、季節の食材では利用者と共に楽しめるように取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回食事チェックして記入しています。9時、14時は水分補給しています。就寝前には希望者の方も水分補給しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後、義歯洗浄後、ホールで保管しています。口腔状態の確認行っています。本人様の力に応じて対応しています。		

宮崎県日向市 グループホーム「仰星台入綾」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の確認行い、現在はオムツ使用の方はいません。排泄間隔確認してトイレ声かけ誘導しています。	現在オムツ使用の方はいないが、排泄チェック表を確認し、さり気ない言葉かけの支援に努めている。夜間ポータブルトイレ使用の方もいるが清潔保持の支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便間隔を把握し、必要に応じて下剤を服用しています。食べ物にも工夫しています。(野菜の提供)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴拒否の方については、次の日で調整しています。好みの湯かげんでゆったりとした気分で入浴して頂いています。	入浴時に合わせて声かけに工夫している。拒否される時にも無理強いせず対応がなされている。季節を感じるゆず湯や、時には気分転換を図り入浴剤を用いることで楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調に配慮して、気の合う方との談話はソファで、居室が好みの方は居室で雑誌を読んだり裁縫をされています。傾眠の方は、居室での静養を声かけしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり服用している薬の内容用法を事務所内に掲示して確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様、役割や楽しみをもって生活できるように支援しています。楽しみの一つである食事やテレビ視聴、歌謡曲視聴で気分転換しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出支援ができていません。定期受診は行っています。	現状では思うような外出支援は出来ていないが気分転換を図り、車の中からもと花見支援も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い帳を作り事務所の金庫で管理しています。買い物がある時は必要に応じて買い物の支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様から依頼がある時は、ご家族様に電話をし直接お話ができるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	どの空間にも換気に気をつけて清潔に保ち居心地よく過ごせるように努めています。ホール掲示板には季節の作品や利用者様の日常の写真を掲示しています。	共用空間であるホール、リビングには空気清浄機が置かれ温度にも配慮がされている。利用者の写真や季節の作品などが飾られゆっくり気持ち良く過ごせるよう配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで気の合う方と談話され、テレビ鑑賞できるように配慮行い、ゆっくりしたい方はソファで横になられています。個々に応じて居場所の工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様が落ち着いて過ごせるように使い慣れた寝具や生活用品を準備して、壁に時計を設置したり家族の写真を飾ったりしています。	利用者や家族の意向もあり使い慣れたタンスなども配置されている。壁には利用者の作品や家族の写真も飾られており、好みの物が傍にある事で居心地よく安心して過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活していただけるように、居室廊下トイレ等ははてすりを設置しています。車椅子の方の移動はなるべく広いスペースを配置し、できること、わかることを声かけて自信へつなげています。		